

かさまるレポート

児童と1年越しの交流

東日本大震災から3か月後の平成23年6月26日に、かさまるくんとかさまるちゃんは宮城県南三陸町を訪れました。その後、笠松小学校の「命を守る授業」の中で、被災地の状況を伝えました。その授業では『「つなみ」～被災地のこども80人の作文集～』に掲載された志津川小学校6年生（震災当時）の山内瑞歩さんが書いた「あたりまえのような幸せ」の作文も紹介しました。



質問に答える山内瑞歩さん（左）



レクリエーションをして盛り上がりました



6キャラが集結

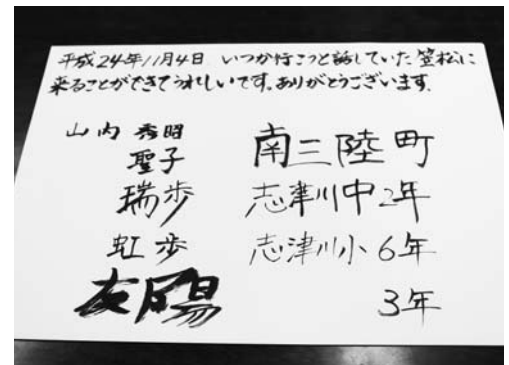
「はよう」といえ、あたりまえのように「ただいま」といえる。普段は気付かない日常が、とても幸せなこと」という言葉がありました。瑞歩さんご家族の話に、大きな震災や津波を体験したことがない笠松小学校の児童は、何かを感じていたようで、真剣なまなざしで耳を傾けていました。

ゆるキャラ®まつりin彦根に今年も参加しました

10月20日、滋賀県彦根市内の商店街で開催されたゆるキャラ®まつりin彦根に、かさまるくんとかさまるちゃんは参加しました。全国から200キャラ以上が集まるこのイベントは、多くの来場者でにぎわい、盛大に開催されました。

昨年に引き続き、ブースではかさまるグッズがあたる「がちャまる」が大盛況。子どもから大人まで、たくさんの人に遊んでもらいました。

応援の言葉をたくさんいただき、かさまるくんとかさまるちゃんは、元気をもらったようです。



山内さん一家の直筆メッセージ

その後、笠松小学校の児童と山内瑞歩さんは作文や手紙の交換などを通じて、交流を続けてきました。瑞歩さんは以前から「必ず家族で笠松町へ遊びに行きたい。笠松小学校のみんなに会いたい」と話していて、遂に実現しました。

瑞歩さんご家族は11月3日に来町され、翌日に笠松小学校を訪れました。小学校では、児童による歓迎の言葉や笠松の紹介、レクリエーションなどをして交流を深めました。

また、南三陸町を訪れた「東日本ご当地キャラ応援団」のメンバーも登場し、瑞歩さんは「あっ」という表情をし、笑顔になりました。

瑞歩さんご家族に話を聞くことができ、その中で「あたりまえのように“お



大盛況の「がちャまる」



今年もたくさんのお友達に会えました